



都市地下空間活用研究会

Urban Underground Space Center of Japan

USJ NEWS LETTER

令和4(2022)年12月 No.18

第55回 定例懇話会「EXPO2025の計画と現状」

去る10月31日、3×3ラボ・フューチャーにおいて第55回定例懇話会が開催されました。今回は、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 整備局整備調整部 整備調整課 課長の長山 功 様に「EXPO2025の計画と現状」と題してご講演いただき、その後、意見交換を行いました。長山様は現在パビリオンの建設を担当されており、大阪市からの出向とのことでした。当日は15名の会員の方が参加しました。以下にこの講演の内容を紹介いたします。



会場の様子

◆大阪・関西万博の概要

国際博覧会には2種類あって、登録博覧会と認定博覧会があり、大阪万博、愛・地球博、上海博、ドバイ万博、そして大阪・関西万博は登録博覧会に該当します。これらは5年以上の間隔を置き、6週間以上6ヶ月以内の開催期間です。1970年の大阪万博は「人類の進歩と調和」というテーマの下、183日の期間中に6,420万人余の入場者数を数えました。

大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで、2025年

4月13日(日)～10月13日(月)の184日間、大阪夢洲(ゆめしま)において開催され、来場者数は約2,820万人と想定しています。テーマの実現に向けた事業のガイドラインにはPeople's Living Lab(未来社会の実験場)という事業コンセプトが掲げられ、「世界との共創」「テーマ実践」「未来社会ショーケース」の3つを実施します。2022年の今年には開幕時の実際の姿を意識した準備が着手され、2023年にはパビリオン敷地の引渡し、会場の建設開始が予定されています。

国際博覧会(万博)とは	
国際博覧会条約に基づく2種類の国際博覧会	
登録博覧会	認定博覧会
【大規模博覧会】 ・5年に1回開催 ・期間は6か月以内 ・面積要件なし <国内開催実績> 旧一般博 ・大阪万博(1970) ・愛知万博(2005)	【小規模博覧会】 ・2回の登録博の間に1回開催 ・期間は3か月以内 ・25ha以内 <国内開催実績> 旧特別博 ・沖縄国際海洋博覧会(1975) ・国際科学技術博覧会(1985) ・国際花と緑の博覧会(1990)

2025年に日本が開催するのは大規模な「登録博覧会」

OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO2025

2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

テーマ
いのち輝く未来社会のデザイン
Designing Future Society for Our Lives

サブテーマ
(1) Saving Lives (いのちを救う)
(2) Empowering Lives (いのち力を与える)
(3) Connecting Lives (いのちをつなぐ)

コンセプト
People's Living Lab (未来社会の実験場)

開催期間
2025年4月13日(日)～10月13日(月) 184日間

想定来場者数
約2,820万人

開催場所
大阪 夢洲 (ゆめしま)



11

OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO2025

テーマの実現に向けて

万博の目的であるテーマの実現に向けて、事業のガイドラインであるPeople's Living Lab (未来社会の実験場) というコンセプトのもと、「世界との共創」「テーマ実践」「未来社会ショーケース」の3つを実施

[事業コンセプト] People's Living Lab (未来社会の実験場)

世界との共創	テーマ実践	未来社会ショーケース
公式参加 パビリオン	テーマ事業 「TEAM EXPO 2025」 プログラム ----- テーマフォーラム	未来社会 ショーケース 事業
公式行事	日本館 自治体等の出展 民間パビリオン 催事	バーチャル万博

12

◆会場について

会場となる夢洲は JR 大阪駅から約 10km、甲子園球場約 100 個分に相当する 390ha の埋立地で、そのうち万博会場には 155ha が充てられます。また隣接して IR 用地 50ha があり、予想される高潮や津波の高さより約 5m の余裕高さを持っています。

OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO2025

夢洲全景



19

OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO2025

会場（夢洲）航空写真



20

会場はロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」に囲まれた万博としてデザインしています。そして、そこには建築面積（水平投影面積）約 60,000 m²、高さ 12m（外側は 20m）、内径約 615m のひとつの大屋根（リング）があり、リングの屋根の下は、会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用します。

OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO2025

会場デザイン ～世界とつながる海と空に囲まれた万博～



四方を海に囲まれた会場ロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」に囲まれた万博としての会場デザイン
「非中心・離散」の理念によって多様性を鼓舞し、そこに「つながり」を重ね合わせた「多様でありながら、ひとつ」をデザイン

23

OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO2025

大屋根（リング）

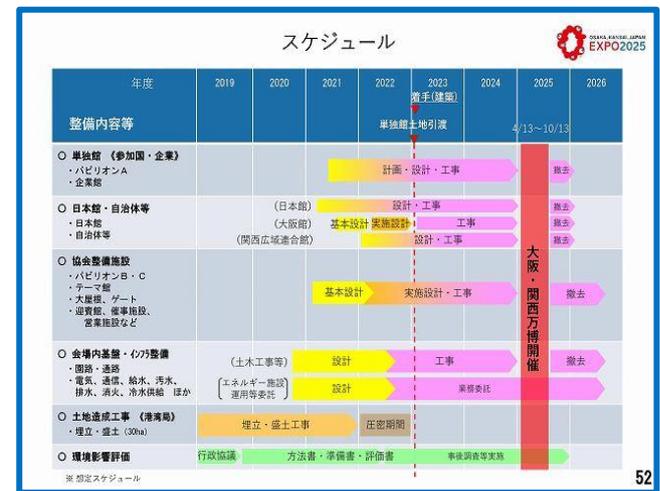
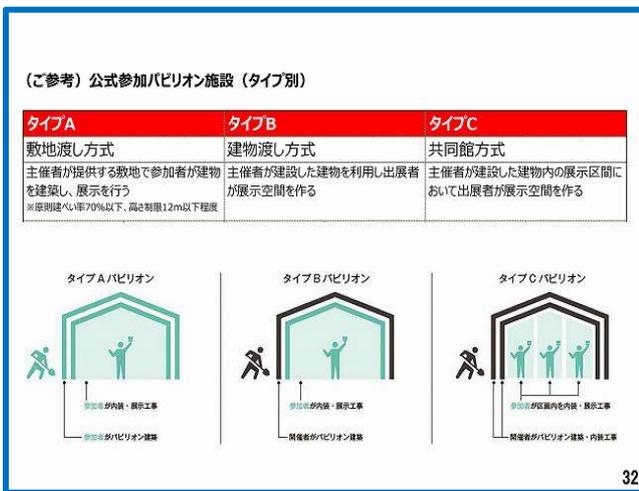


25

会場のレイアウトは、パビリオン等の施設が集まるにぎわいのエリア「パビリオンワールド」(約65ha)、水景を活用した憩いのエリア「ウォータープラザ&つながりの海」(約47ha)、そして会場の西側の海に面した緑地エリア「グリーンワールド」(約43ha)より構成しています。このうちパビリオンワールドでは、すべてのパビリオンがリング通路側に表玄関を持ち、公式参加パビリオン、民間パビリオン、テーマ館、静けさの森などを配置しています。



公式参加パビリオン施設の建設方式には、タイプA 敷地渡し方式、タイプB 建物渡し方式、タイプC 共同館方式の3つのタイプがあり、建築のガイドラインを用意しています。パビリオンはすでに多くの施設で計画、設計が進んでおり、2023年には順次工事が始まり、2024年度末には完成します。



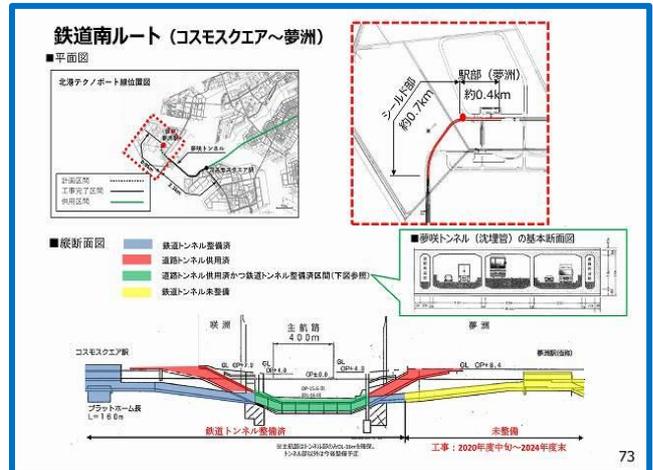
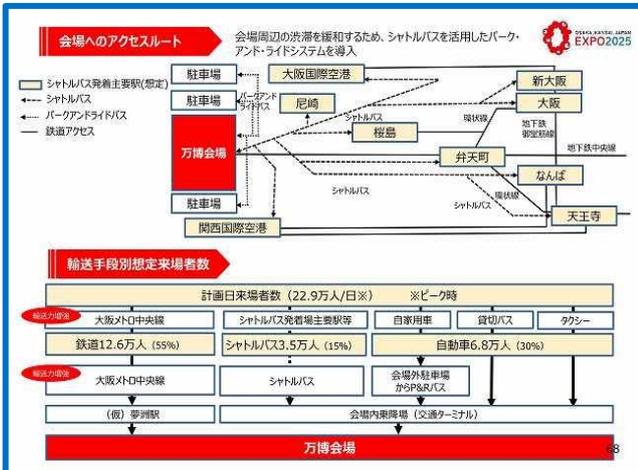
◆アクセスおよび周辺整備

会場へのアクセスルートは大阪メトロ中央線をメインとし、シャトルバスを活用したパーク・アンド・ライドシステムを導入して会場周辺の渋滞を緩和する計画です。大阪メトロ中央線他の鉄道により12.6万人(55%)、新大阪・梅田・なんばなどからのシャトルバスで3.5万人(15%)、自動車から6.8万人(30%)、併せて計画日來場者数(22.9万人/日※ピーク時)を見込んでいます。

大阪メトロ中央線を利用する鉄道南ルートからのアクセスは、北港テクノポート線のコスモスクエア～夢洲間に新線3.2kmを整備する計画です。このうち夢咲トンネル2.3kmは既に整備済みで、今回シールドトンネル部0.7kmと夢洲駅部0.2+0.2kmを整備しています。夢洲駅は地下1

階が改札階、地下2階がホーム階で、改札階をエスカレータで地上に上がると会場東ゲートに直結します。2023年度中に躯体構築、軌道敷設を終え、2024年度の開業を目標にしています。

その他、夢洲関連の基盤整備としては、埋立・盛土、地盤改良、浸水対策、観光外周道路、高架橋、下水道、上水道、電気・通信・ガス、駅前施設、夢洲幹線道路などが進められています。



講演後は、会場へのアクセス、会場の地盤改良、大阪地区の宿泊キャパシティ、跡地利用、夢洲駅の構造などの、活発な質疑応答、意見交換がありました。

なお、長山様には事務局から事前に質問メモを送らせていただき、これらにも丁寧に回答いただき、参加者の皆さんと共有しました。

◆参考リンク

<大阪・関西万博>

オフィシャルテーマソング ... <https://www.expo2025.or.jp/overview/themesong/>

会場フライスルー動画 ... <https://www.expo2025.or.jp/overview/movie/>

オフィシャルホームページ ... <https://www.expo2025.or.jp/>